



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月12日

上場会社名 ホクト株式会社 上場取引所 東
コード番号 1379 URL <https://www.hokto-kinoko.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）水野 雅義
問合せ先責任者 （役職名）取締役常務執行役員財務本部長 （氏名）中田 康平 TEL 026-259-5955
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	19,343	4.4	418	136.8	777	426.1	452	△66.7
2026年3月期第1四半期	18,524	3.9	176	—	147	△84.0	1,358	125.4

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 973百万円（△53.8％） 2026年3月期第1四半期 2,108百万円（423.9％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	14.44	12.37
2026年3月期第1四半期	43.43	37.21

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年3月期第1四半期	115,729	64,504	55.7
2026年3月期	113,726	64,924	57.1

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 64,504百万円 2026年3月期 64,924百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	10.00	—	45.00	55.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	10.00	—	52.00	62.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	38,900	2.2	110	89.3	330	7.2	△94	—	△3.00
通期	88,100	2.5	7,260	3.3	7,650	△6.6	5,250	△25.1	167.22

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2027年3月期1 Q	33,359,040株	2026年3月期	33,359,040株
2027年3月期1 Q	1,990,866株	2026年3月期	2,012,666株
2027年3月期1 Q	31,353,674株	2026年3月期1 Q	31,271,314株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しているものの、中東情勢の影響を受けた物価高騰やエネルギーコストの上昇、不安定な国際情勢の影響による為替・金利の変動など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループは、「きのこで健康を届けることを使命に市場と消費を拡大する」「利益の創出と企業の社会的責任を両立する」という経営ビジョンの下、健康食材である「きのこ」を事業の中心に据え、その研究開発、生産、販売を通してより多くの皆様へおいしさと健康をお届けできるよう事業活動を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高193億43百万円（前年同四半期比4.4%増）、営業利益4億18百万円（同136.8%増）、経常利益7億77百万円（同426.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億52百万円（同66.7%減）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間の主要きのこの生産量（連結ベース）は、ブナピーを含むブナシメジ10,695 t（同1.0%減）、エリンギ3,877 t（同5.9%減）、マイタケ3,516 t（同4.9%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

「国内きのこ事業」

生産部門におきましては、引き続きコスト削減に取り組むとともに、衛生管理をより徹底し、品質の向上と安定栽培に努め、安全・安心なきのこを生産してまいりました。

開発研究部門におきましては、商品品質の向上、付加価値の高い新商品や新品種の開発及びきのこの薬理効果や機能性の追求に取り組んでまいりました。

営業部門におきましては、きのこ需要を喚起すべく、健康・美容・スポーツを3本柱とした「きのこで菌活」を提唱し、鮮度に拘った営業活動を行ってまいりました。引き続き、中期経営計画に掲げた、新規開拓、エリア戦略などを推し進めるとともに、SNSを活用した認知向上や量販店舗でのプロモーションなどの施策を実施しております。GW明けには、天候不順で野菜相場が堅調に推移したことなどもあり、きのこの価格は堅調な動きとなりました。

以上の結果、国内きのこ事業全体の売上高は120億95百万円（同2.6%増）、セグメント利益は6億73百万円（同47.7%増）となりました。

なお、お客様の幅広いご要望にお応えするため、商品ラインナップの拡充を継続して模索しておりましたが、近年の日本国内におけるマッシュルーム需要の高まりを踏まえ、本年5月にマッシュルーム業界三番手の生産会社である、有限会社舟形マッシュルームを子会社化しております。

「海外きのこ事業」

米国の現地法人「HOKTO KINOKO COMPANY」におきましては、中東情勢の影響でガソリン代が大きく値上がりしたことで消費が鈍り、きのこ市場にとりましても厳しい外部環境となりました。また、一部の安定顧客が入札方式を採用し、これを落札できなかった要因も重なり、売上高・営業利益ともに計画を下回りました。一方、新規開拓は成果が出つつあり、米最大手の一角を占めるKrogerグループとの取引を一部のエリアで開始いたしました。

台湾の現地法人「台湾北斗生技股份有限公司」におきましては年初計画で予定していた大手顧客の大型特売が急遽キャンセルされたことや、野菜相場の暴落により相当な在庫過多となり、過剰在庫対応の特売が利益を圧迫した結果、売上高・営業利益ともに計画を下回りましたが、前年同期比ではほぼ同水準で着地いたしました。

マレーシアの現地法人「HOKTO MALAYSIA SDN. BHD.」におきましては、販売強化を目指した新組織体制で臨み、モノ売りからコト売りへの転換に取り組みました。特に、マレーシア国内では中国産との競争が激しい中、主要小売店舗でのイベントを質量ともに充実させるとともに、ターゲット層を拡げて訴求を強化いたしました。その他のASEAN地域でも販促強化を行った結果、売上高は計画を下回りましたが、営業損失は計画より大幅に縮小いたしました。

以上の結果、海外きのこ事業全体の売上高は18億20百万円（同0.1%減）、セグメント利益は82百万円（同64.2%減）となりました。

「加工品事業」

加工品事業におきましては、業務用生鮮きのこを始め、きのこ加工品や各種加工食品の拡販に注力し、新商品の開発と市場開拓にも取り組んでまいりました結果、外食部門とデリカ・中食向け商材が好調に推移して、事業全体を牽引し、コンビニエンスストア向け販売も復調いたしました。通信販売では、EC運営や広告運用を見直したことにより、以前より好調であった乾燥きのこに加えて、レトルト食品も大幅に伸長しており、健康食品の定期顧客数増加も相まって事業全体が順調に成長しております。また、子会社の株式会社アーデンにおきましては、期初は得意先からの受注が思わしくなく4月・5月は苦戦いたしましたが、6月に大幅回復を遂げたことから、売上高は計画には若干届きませんでしたが、生産量と営業利益は計画を超える結果となりました。

以上の結果、加工品事業の売上高は17億79百万円（同6.3%増）、セグメント利益は39百万円（同138.4%増）となりました。

「化成品事業」

化成品事業におきましては、包装資材、工業資材、農業資材の各分野とも中東情勢の混乱に伴うメーカー各社の出荷制限が発生する中、安定供給を最優先課題として取り組んでまいりました。仕入コストの上昇に対しては、お客様にご理解をいただき価格改定を進め、収益の確保に努めました。

自社製品についても中東情勢混乱の影響を受けましたが、既存ユーザーからの受注は安定推移し堅調でした。

以上の結果、化成品事業の売上高は36億47百万円（同12.7%増）、セグメント利益は1億88百万円（74.5%増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は415億14百万円となり、前連結会計年度末より9億84百万円増加いたしました。固定資産は742億15百万円となり、前連結会計年度末より10億18百万円増加いたしました。

この結果、総資産は1,157億29百万円となり、前連結会計年度末より20億3百万円増加いたしました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は262億67百万円となり、前連結会計年度末より27億84百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金40億3百万円及び流動負債のその他に含まれる未払金11億22百万円の増加及び未払法人税等24億38百万円の減少によるものであります。固定負債は249億57百万円となり、前連結会計年度末より3億61百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は512億25百万円となり、前連結会計年度末より24億23百万円増加いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は645億4百万円となり、前連結会計年度末より4億19百万円減少いたしました。

この結果、自己資本比率は55.7%（前連結会計年度末は57.1%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年5月15日付「2026年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,740	21,979
受取手形及び売掛金	6,948	6,560
有価証券	5,977	4,077
商品及び製品	2,220	2,677
仕掛品	4,345	4,461
原材料及び貯蔵品	1,103	1,220
その他	1,201	545
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	40,529	41,514
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	74,960	75,209
減価償却累計額	△41,862	△42,535
建物及び構築物（純額）	33,097	32,673
機械装置及び運搬具	73,442	74,326
減価償却累計額	△65,354	△66,196
機械装置及び運搬具（純額）	8,088	8,129
土地	14,680	15,549
その他	3,645	3,890
減価償却累計額	△2,086	△2,131
その他（純額）	1,559	1,759
有形固定資産合計	57,426	58,112
無形固定資産	96	85
投資その他の資産		
投資有価証券	11,046	11,451
退職給付に係る資産	2,174	2,187
その他	2,623	2,549
貸倒引当金	△170	△172
投資その他の資産合計	15,674	16,016
固定資産合計	73,196	74,215
資産合計	113,726	115,729

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,667	1,994
電子記録債務	3,293	3,584
短期借入金	5,636	9,640
未払法人税等	2,676	237
賞与引当金	1,434	833
その他	8,776	9,977
流動負債合計	23,483	26,267
固定負債		
新株予約権付社債	10,011	10,010
長期借入金	10,683	10,013
退職給付に係る負債	318	310
資産除去債務	1,071	1,079
その他	3,233	3,542
固定負債合計	25,318	24,957
負債合計	48,802	51,225
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500	5,500
資本剰余金	5,728	5,728
利益剰余金	52,460	51,482
自己株式	△3,694	△3,656
株主資本合計	59,994	59,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,440	4,824
為替換算調整勘定	△212	△66
退職給付に係る調整累計額	702	692
その他の包括利益累計額合計	4,929	5,450
純資産合計	64,924	64,504
負債純資産合計	113,726	115,729

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	18,524	19,343
売上原価	14,156	14,697
売上総利益	4,368	4,645
販売費及び一般管理費	4,191	4,227
営業利益	176	418
営業外収益		
受取配当金	146	196
受取地代家賃	38	38
為替差益	—	106
その他	41	63
営業外収益合計	226	405
営業外費用		
支払利息	31	41
為替差損	207	—
その他	16	4
営業外費用合計	255	45
経常利益	147	777
特別利益		
固定資産売却益	1	2
受取保険金	1,896	—
特別利益合計	1,898	2
特別損失		
固定資産除却損	0	0
火災損失	56	—
特別損失合計	56	0
税金等調整前四半期純利益	1,989	780
法人税、住民税及び事業税	306	132
法人税等調整額	324	195
法人税等合計	630	327
四半期純利益	1,358	452
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,358	452

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	1,358	452
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	327	384
為替換算調整勘定	426	146
退職給付に係る調整額	△4	△10
その他の包括利益合計	750	520
四半期包括利益	2,108	973
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,108	973
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2025年4月1日 至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内きのこ 事業	海外きのこ 事業	加工品事業	化成品事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上 高	11,790	1,822	1,674	3,237	18,524	—	18,524
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	27	—	—	304	331	△331	—
計	11,818	1,822	1,674	3,542	18,856	△331	18,524
セグメント利益	456	231	16	107	812	△635	176

(注) 1. セグメント利益の調整額△635百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△640百万円およびセグメント間取引消去5百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2026年4月1日 至2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内きのこ 事業	海外きのこ 事業	加工品事業	化成品事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上 高	12,095	1,820	1,779	3,647	19,343	—	19,343
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	43	—	—	474	517	△517	—
計	12,138	1,820	1,779	4,121	19,861	△517	19,343
セグメント利益	673	82	39	188	984	△566	418

(注) 1. セグメント利益の調整額△566百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△557百万円およびセグメント間取引消去△8百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	1,341百万円	1,295百万円